

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2023年10月～12月期

目次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2024年2月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2023年10月～12月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 150企業

2. 調査対象期間

2023年10月～12月期を対象として、調査時点は2023年11月15日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業種	企業数
製造業	33
建設業	24
小売業	43
サービス業	50
合計	150

5. その他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2023年10月～12月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期より△7.4ポイント悪化し△29.5（前期△22.1）となった。産業別では、製造業が△21.2（前期△33.4）で12.2ポイントの改善、建設業は△20.8（前期△20.9）で0.1ポイントの改善、小売業は△51.1（前期△38.1）では△13.0ポイント悪化、サービス業でも△20.4（前期△2.0）と△18.4ポイントの悪化となった。

来期見通しでは、製造業で横ばい、建設業、サービス業で悪化する一方、小売業では改善の見通しである。

表-1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 22.1	△ 29.5	△ 32.2
製造業	△ 33.4	△ 21.2	△ 21.2
建設業	△ 20.9	△ 20.8	△ 25.0
小売業	△ 38.1	△ 51.1	△ 48.9
サービス業	△ 2.0	△ 20.4	△ 28.6

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が12.1%で前期比横ばい、建設業は20.8%で前期比12.5ポイント増加、小売業では11.6%で前期比0.3ポイント減少、サービス業では12.0%と前期比横ばいであった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて製造業で横ばい、建設業で減少、小売業、サービス業で増加する見通しとなっている。

表-2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	12.1	12.1	12.1
建設業	8.3	20.8	4.2
小売業	11.9	11.6	14.0
サービス業	12.0	12.0	14.0

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2023年12月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2023年9月調査）と比較し、「製造業がプラス1で前期比6ポイント上昇、非製造業はプラス14で前期比2ポイント上昇。価格転嫁の進展や資源高の一服感から収益環境が改善、加えて、訪日外国人による消費支出が増加するなど景況感は上向き見通しとする一方で、人手不足の深刻化による収益機会の喪失や、人件費増加が収益を下押しする可能性には注意が必要」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では建設業で横ばい、製造業、小売業、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業、小売業、サービス業で全国・東北以下、建設業で全国以下・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 5.0	△ 7.4	△ 8.5	△ 21.7	△ 15.2	△ 33.4
建 設 業	△ 14.0	△ 14.3	△ 21.5	△ 20.0	△ 16.7	△ 16.7
小 売 業	△ 12.6	△ 17.6	△ 17.5	△ 29.9	2.4	△ 32.6
サービス業	14.0	5.1	18.3	△ 0.6	10.0	△ 2.0

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較において全業種で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業、建設業、サービス業では全国・東北以下、小売業で全国以下・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.9	△ 21.0	△ 29.8	△ 28.8	△ 33.3	△ 35.5
建 設 業	△ 26.9	△ 25.3	△ 40.3	△ 31.0	△ 33.3	△ 37.5
小 売 業	△ 35.0	△ 33.8	△ 43.4	△ 41.5	△ 38.1	△ 39.5
サービス業	△ 21.5	△ 23.2	△ 19.4	△ 26.7	△ 28.0	△ 30.6

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2024年1月～3月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が24.4ポイント改善とする一方、建設業で△20.8ポイント、小売業で△6.9ポイント、サービス業で△22.0ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で9.7ポイント、小売業で9.3ポイントの改善となり、建設業で△4.2ポイント、サービス業で△6.1ポイントの悪化の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国・宮城で改善、採算でも全国・宮城で改善の見通し。建設業では売上は全国・宮城で悪化、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通し。小売業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通し。サービス業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 7.4	△ 6.2	△ 33.4	△ 9.0
建設業	△ 14.3	△ 17.2	△ 16.7	△ 37.5
小売業	△ 17.6	△ 20.2	△ 32.6	△ 39.5
サービス業	5.1	△ 1.2	△ 2.0	△ 24.0

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 21.0	△ 17.2	△ 35.5	△ 25.8
建設業	△ 25.3	△ 25.2	△ 37.5	△ 41.7
小売業	△ 33.8	△ 29.3	△ 39.5	△ 30.2
サービス業	△ 23.2	△ 19.6	△ 30.6	△ 36.7

2. 県下産業別の景況

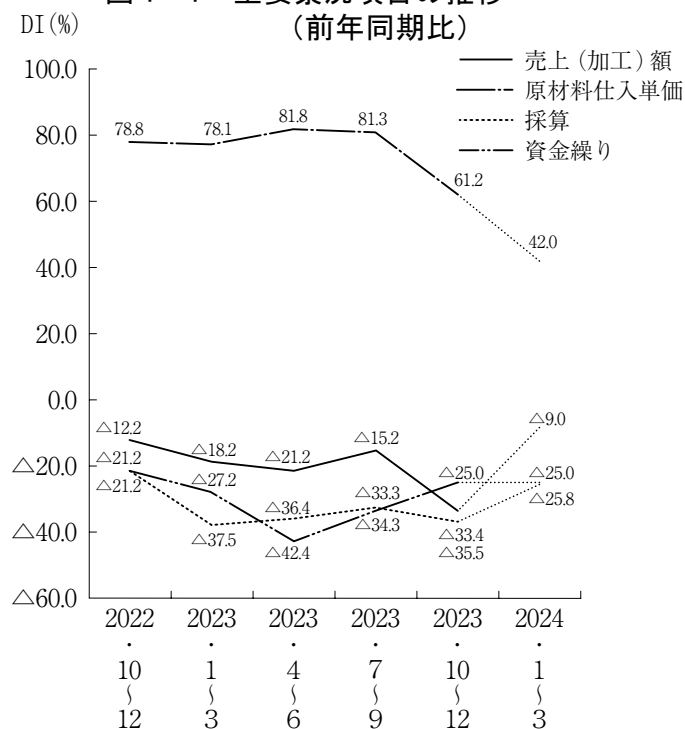
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比DIは、売上（加工）額DIが今季△33.4（前期△15.2）となり△18.2ポイント悪化、採算DIでは今季△35.5（前期△33.3）で△2.2ポイント悪化、資金繰りDIでは今季△25.0（前期△34.3）で9.3ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今季61.2（前期81.3）と△20.1ポイント下落した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



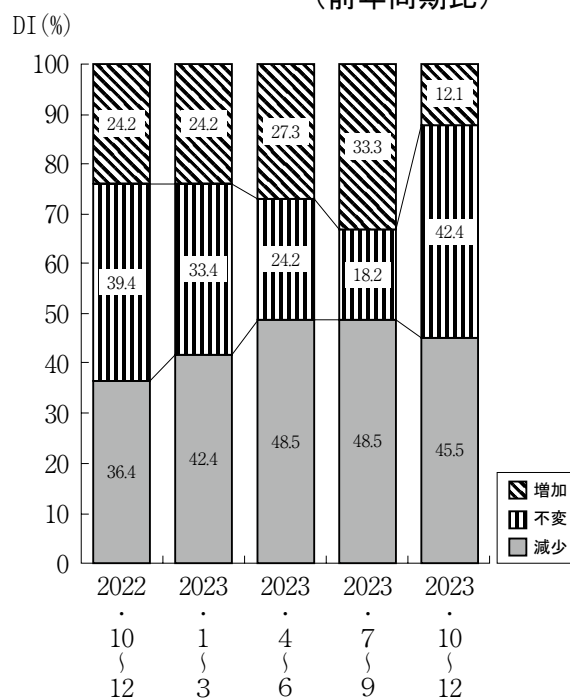
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の12.1%（前期33.3%）で△21.2ポイントの減少、「減少」と回答した企業は45.5%（前期48.5%）で△3.0ポイント減少した。

その結果、売上（加工）額DIは△33.4（前期△15.2）となり、前期比△18.2ポイントの悪化となった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

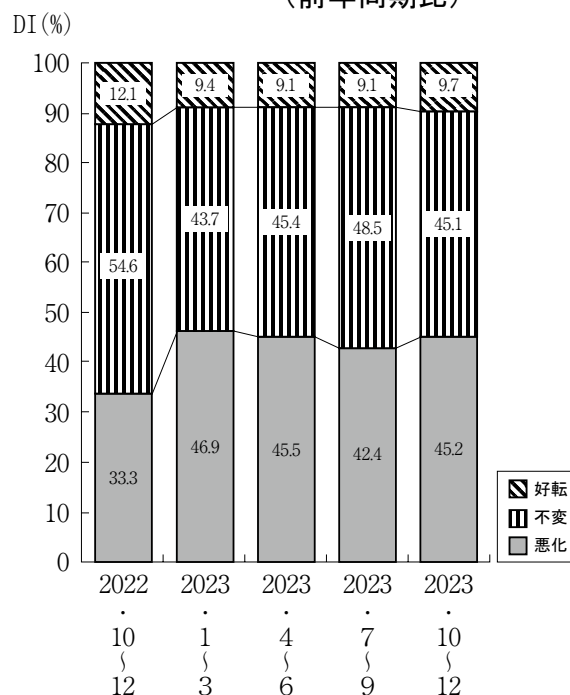


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の9.7% (前期9.1%)で0.6ポイント増加、「悪化」と回答した企業は45.2% (前期42.4%)で2.8ポイント増加。

その結果、採算DIは△35.5 (前期△33.3)で△2.2ポイントの悪化となった。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



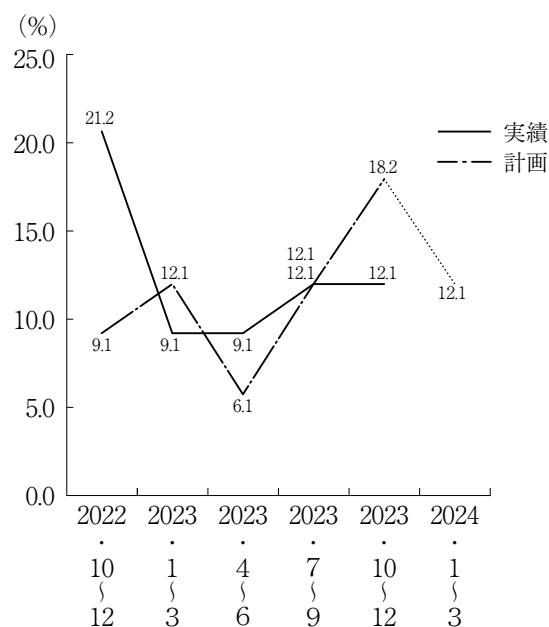
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の12.1% (前期12.1%)で横ばい。

その設備内容は、生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の12.1%で、その設備内容は、生産設備、付帯施設、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

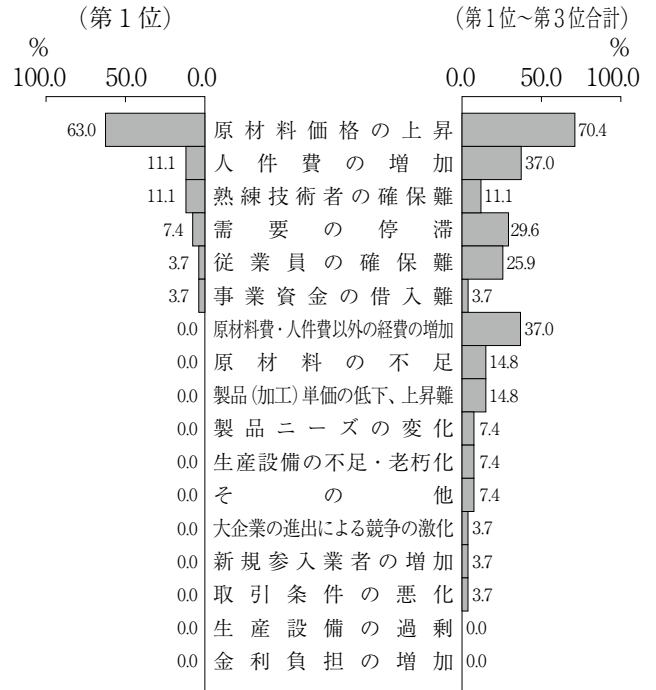


(d) 経営上の問題点

重要度第 1 位の問題点は「原材料価格の上昇」で 63.0%、次いで「人件費の増加」「熟練技術者の確保難」が同率 11.1% で続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計では「原材料価格の上昇」が 70.4%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費の増加」「原材料費・人件費以外の経費の増加」が同率 37.0%、「需要の停滞」が 29.6%、「従業員の確保難」が 25.9%、「原材料の不足」「製品（加工）単価の低下、上昇難」が同率 14.8%で続いた。

図 1-5 経営上の問題点



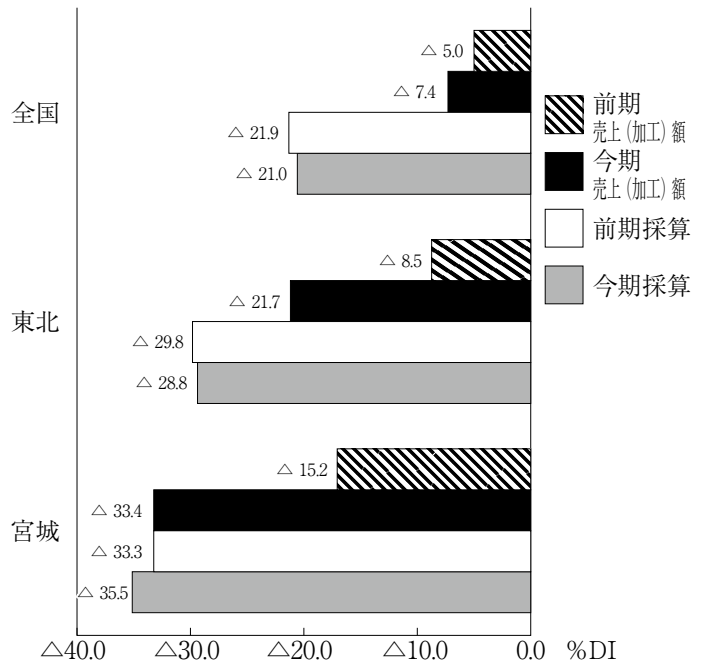
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額 D I は全国、東北、宮城で悪化であった。

採算 D I では全国、東北で改善、宮城で悪化であった。

本県回答事業者からは「建築石材の需要が高まった」（窯業土石）、「前期比で価格の上昇は落ち着いてきた」（食料品）とする一方、「受注が減少」（金属加工）、「固定費上昇分が製品単価に反映されない」（電子部品）、「賃上げ分の原資確保が困難」（生活雑貨）、「人手不足」（機械加工）などのコメントが寄せられた。

図 1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）

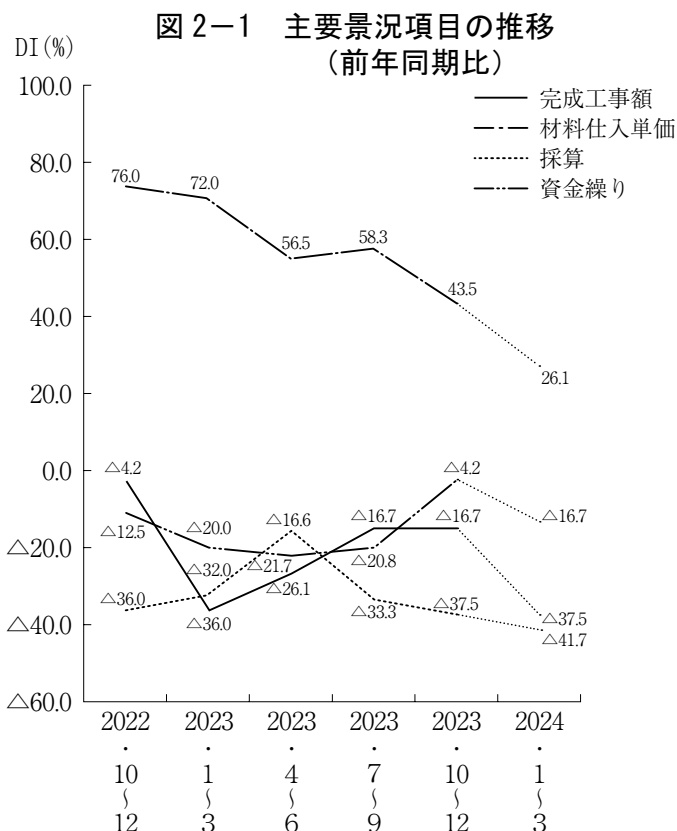


(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額DIは今期△16.7（前期△16.7）となり、前期比横ばい、採算DIでは今期△37.5（前期△33.3）で△4.2ポイント悪化、資金繰りDIでは今期△4.2（前期△20.8）となり、16.6ポイント改善した。

材料仕入単価DIは今期43.5（前期58.3）と△14.8ポイントの下落となった。

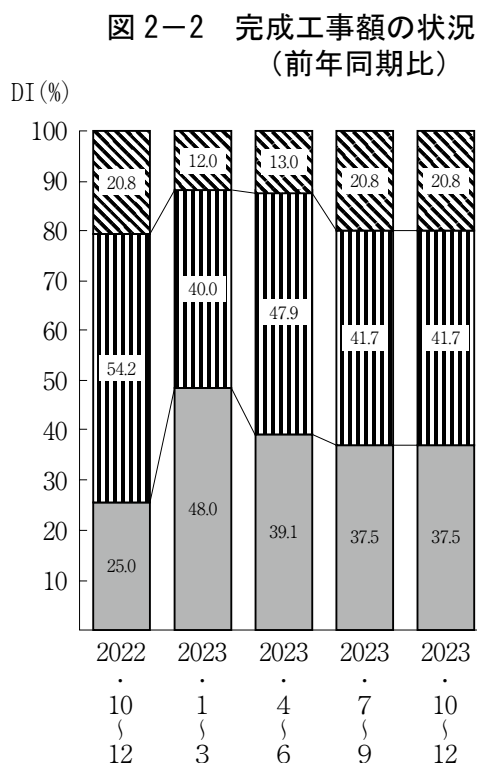


② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の20.8%（前期20.8%）で横ばい、「減少」と回答した企業も37.5%（前期37.5%）で横ばいとなった。

その結果、完成工事（請負工事）額DIは△16.7（前期△16.7）となり、前期比で横ばいとなった。

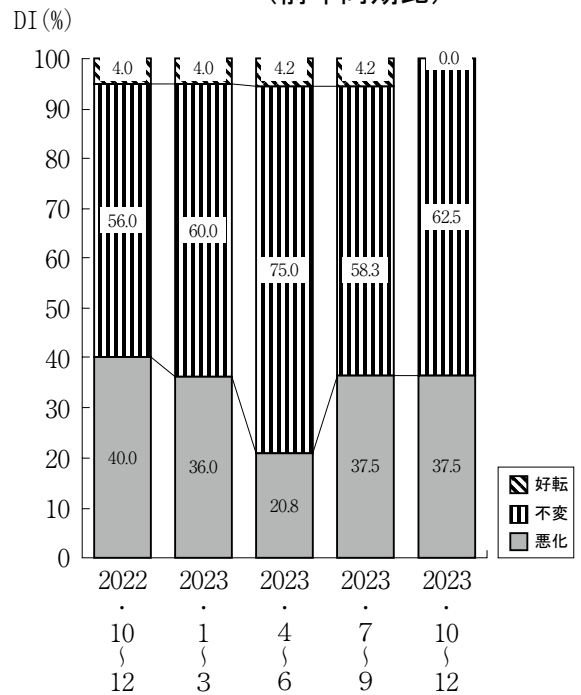


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の0.0%（前期4.2%）で△4.2ポイント悪化、「悪化」と回答した企業は全体の37.5%（前期37.5%）となり横ばいであった。

その結果、採算DIは△37.5（前期△33.3）となり△4.2ポイントの悪化となった。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



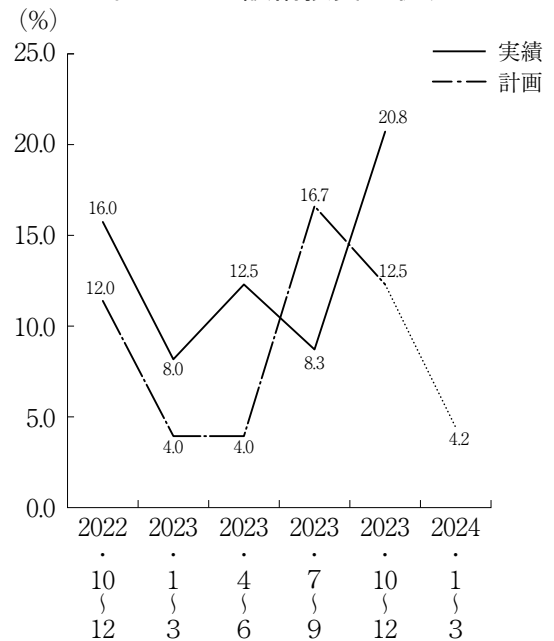
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の20.8%（前期8.3%）で前期と比べ12.5ポイント増加した。

その設備内容は、建物、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の4.2%で、その設備内容は、車両・運搬具、OA機器となっている。

図2-4 設備投資の状況

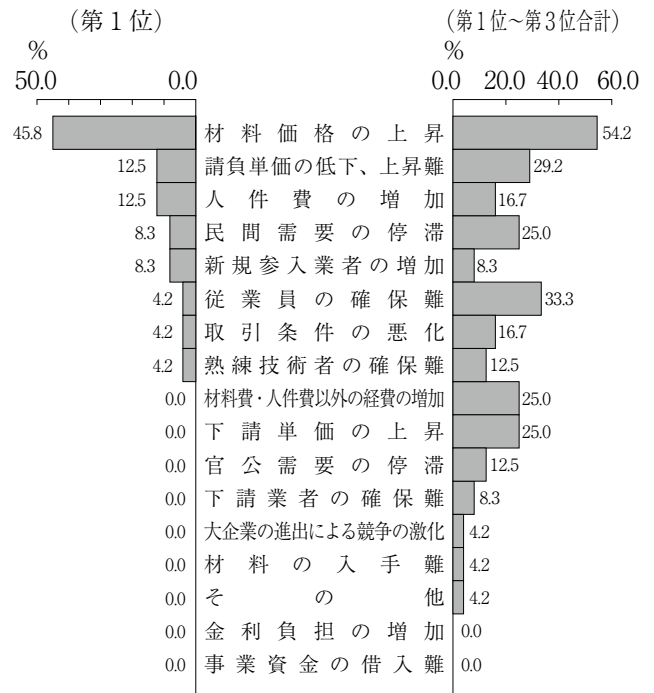


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」で45.8%、次いで「請負単価の低下、上昇難」「人件費の増加」が同率12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が54.2%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「従業員の確保難」が33.3%、「請負単価の低下、上昇難」が29.2%、「民間需要の停滞」「材料費・人件費以外の経費の増加」「下請単価の上昇」が同率25.0%、「人件費の増加」「取引条件の悪化」が同率16.7%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



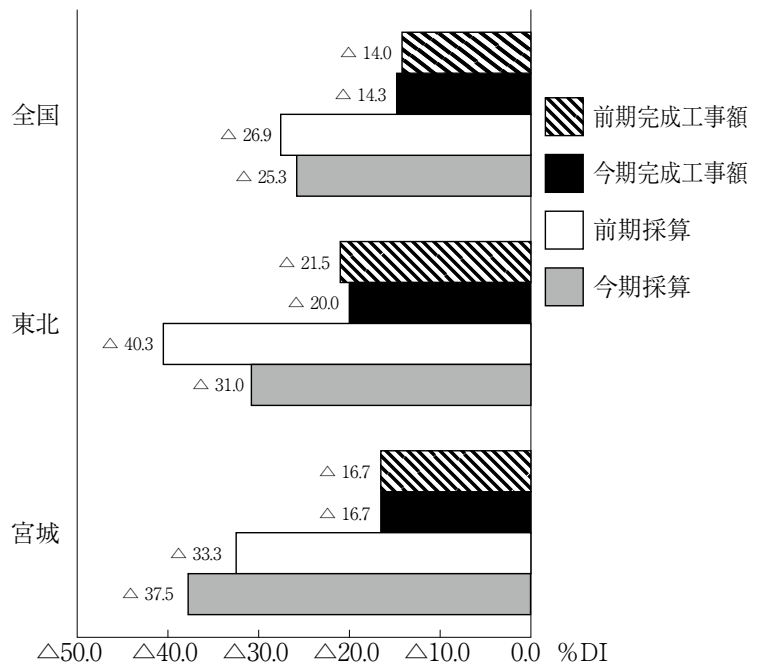
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額DIは全国で悪化、東北で改善、宮城は横ばいであった。

採算DIの比較では全国、東北で改善、宮城は悪化であった。

本県回答事業所からは「好転と悪化は紙一重、仕事量が3分の1になった」(建築リフォーム)、「取引条件が悪化している」(土木建築)、「材料価格の高騰に加え、外注費も高止まりしている」(一般建築工事)などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）

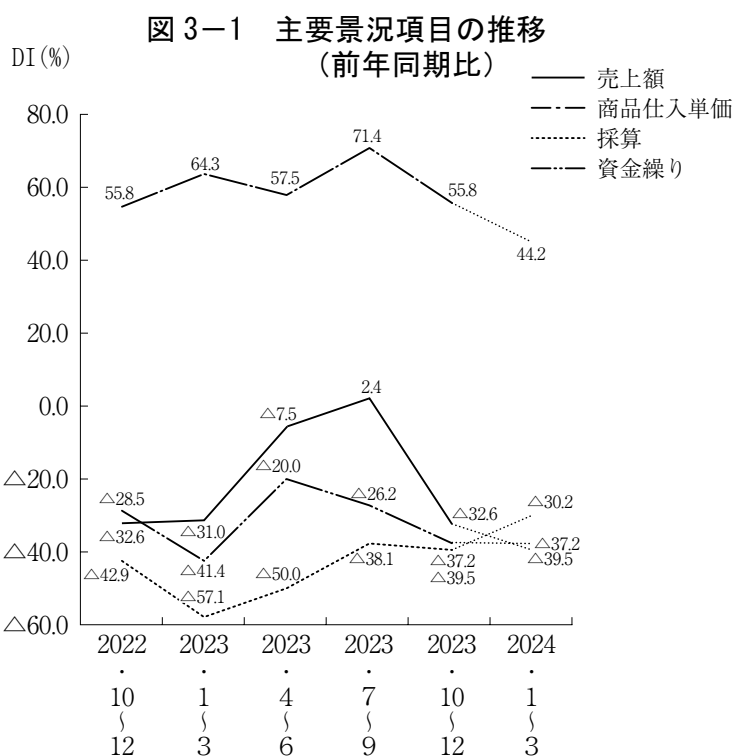


(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは今期△32.6（前期2.4）と前期より△35.0ポイント悪化、採算DIでは今期△39.5（前期△38.1）で△1.4ポイント悪化、資金繰りDIでは今期△37.2（前期△26.2）で△11.0ポイント悪化した。

商品仕入単価DIは今期55.8(前期71.4)となり、△15.6ポイントの下落となった。



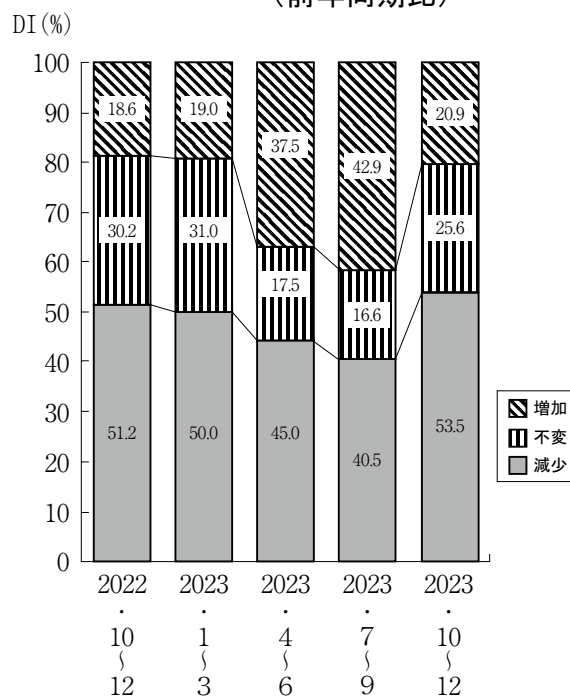
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の20.9%（前期42.9%）で△22.0ポイント減少、「減少」の回答は、今期は全体の53.5%（前期40.5%）で13.0ポイント増加した。

その結果、売上額DIは今期△32.6（前期2.4）と前期より△35.0ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

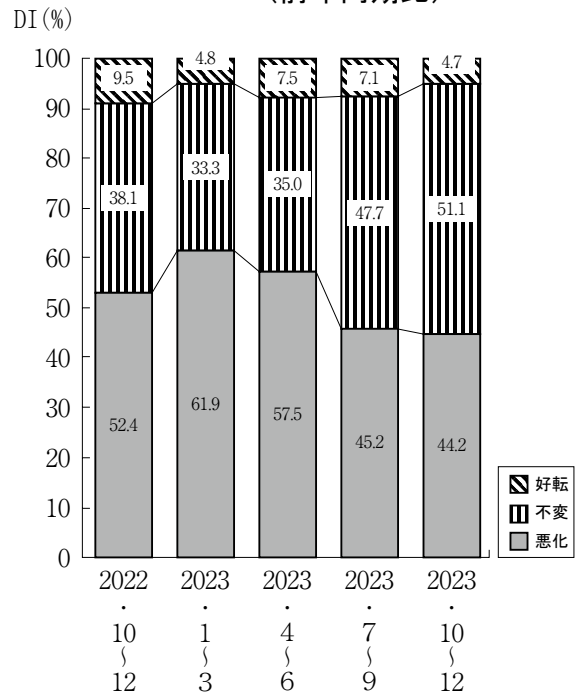


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.7%（前期7.1%）で△2.4ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の44.2%（前期45.2%）で△1.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△39.5（前期△38.1）で、前期より△1.4ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



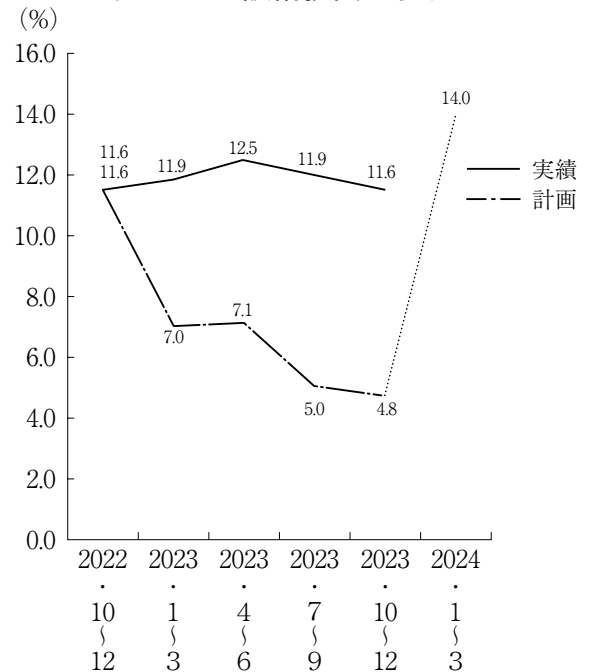
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、今期は全体の11.6%（前期11.9%）で前期比△0.3ポイントの減少となった。

その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の14.0%で、その設備内容は、販売設備、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

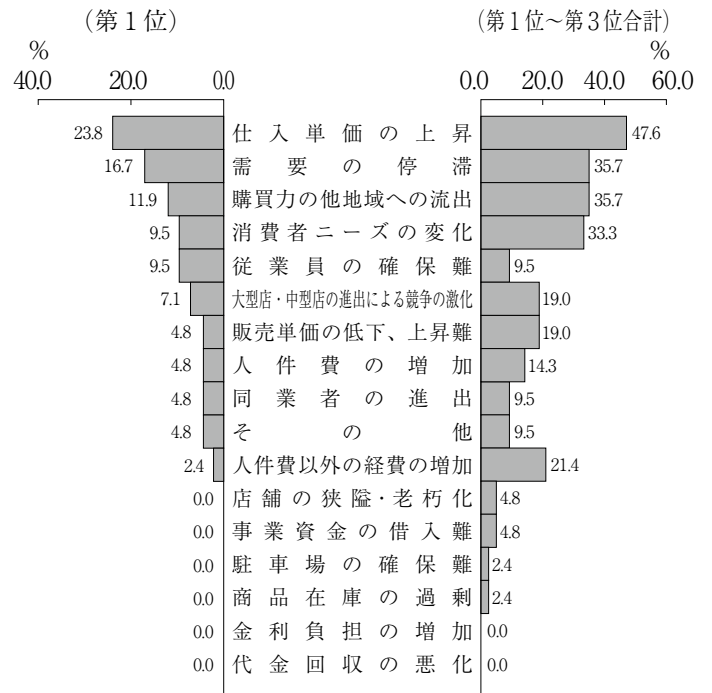


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「仕入単価の上昇」が23.8%、次いで「需要の停滞」が16.7%、「購買力の他地域への流出」が11.9%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が47.6%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」「購買力の他地域への流出」が同率35.7%、「消費者ニーズの変化」が33.3%、「人件費以外の経費の増加」が21.4%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」「販売単価の低下、上昇難」が同率19.0%、「人件費の増加」が14.3%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



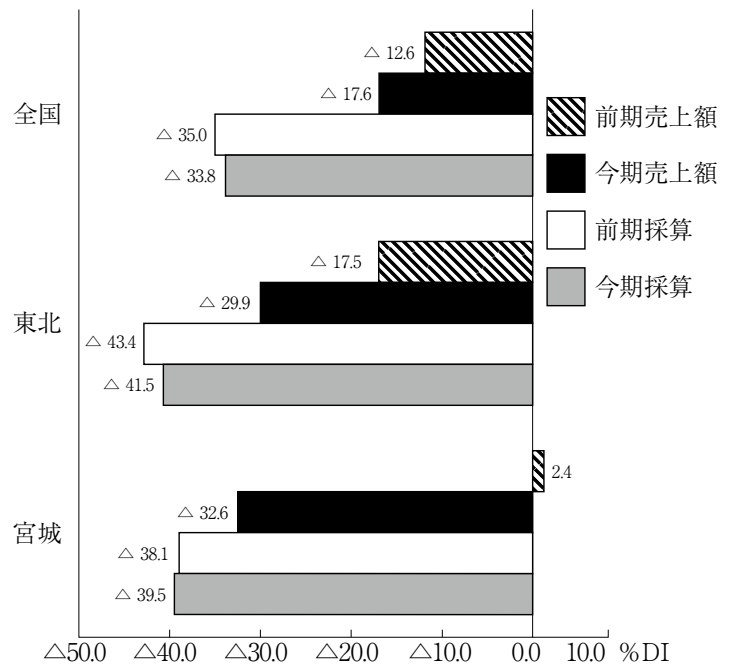
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較では全国、東北で改善、宮城は悪化であった。

本県回答事業所から「コロナ5類移行後、人との交流が増えた」（身の回り品）、「客足が戻ってきた」（飲食料品）とする一方で、「商品の動きが鈍く過剰在庫気味となっている」（身の回り品）、「重要な停滞、仕入単価の高騰により業況は厳しい」（飲食料品）、「従業員の確保が困難」（生鮮食料品）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



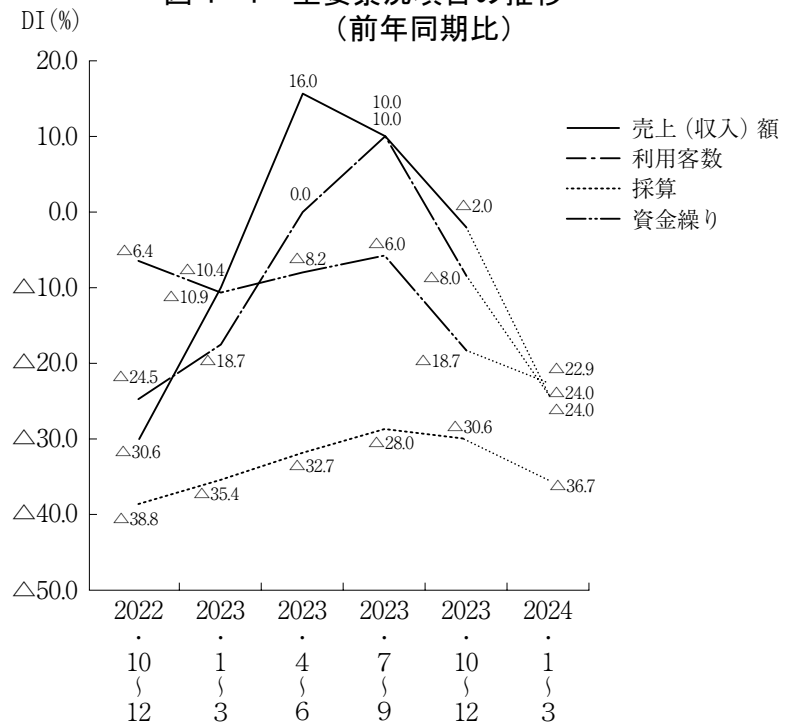
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額DIは今期△2.0（前期10.0）で△12.0ポイント悪化、採算DIは今期△30.6（前期△28.0）で△2.6ポイント悪化、資金繰りDIでは、今期△18.7（前期△6.0）で△12.7ポイント悪化した。

利用客数DIは、今期△8.0（前期10.0）で△18.0ポイント低下した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



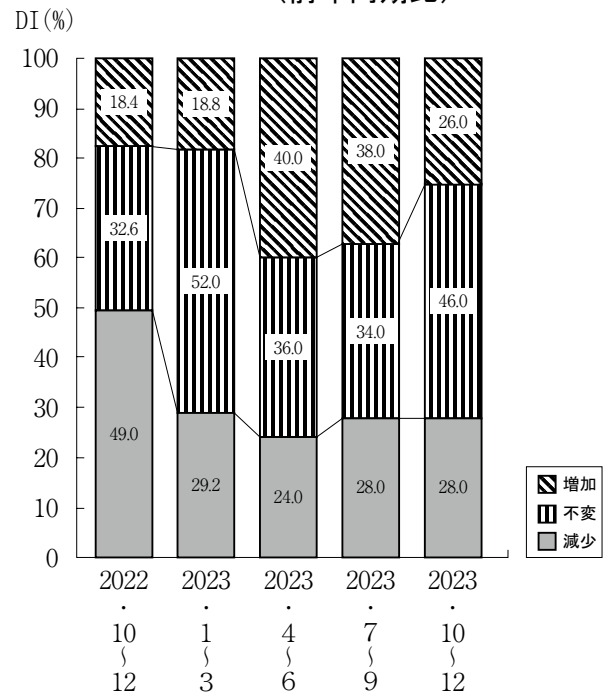
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の26.0%（前期38.0%）で前期より△12.0ポイント減少、「減少」の回答は今期28.0%（前期28.0%）で横ばいとなった。

その結果、売上（収入）額DIは今期△2.0（前期10.0）で、前期より△12.0ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

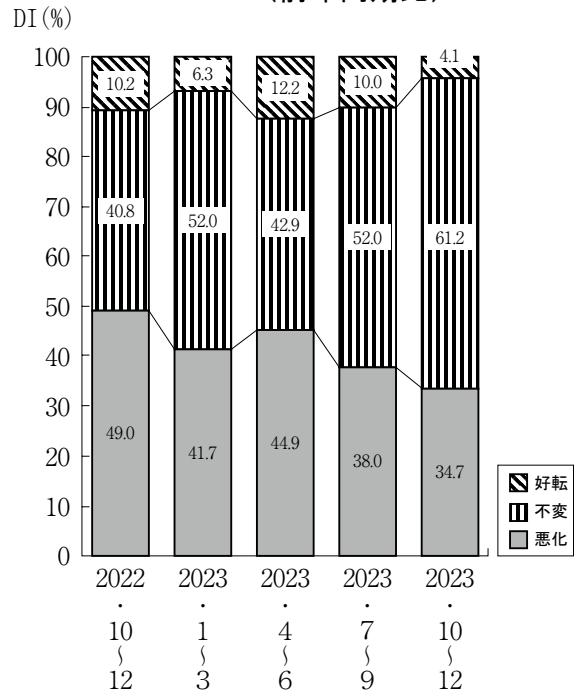


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.1%（前期10.0%）で△5.9ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期34.7%（前期38.0%）と△3.3ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△30.6（前期△28.0）で前期より△2.6ポイント悪化した。

**図 4-3 採算の状況
（前年同期比）**



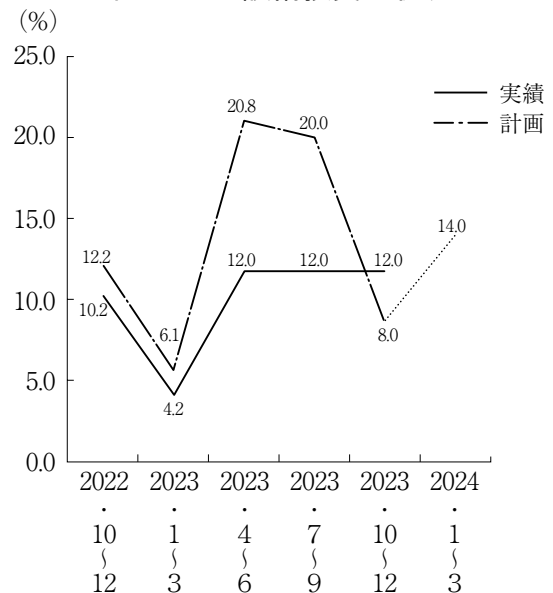
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の12.0%（前期12.0%）で、前期と比べて横ばいであった。

その設備内容は、建物、サービス、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の14.0%で、その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図 4-4 設備投資の状況

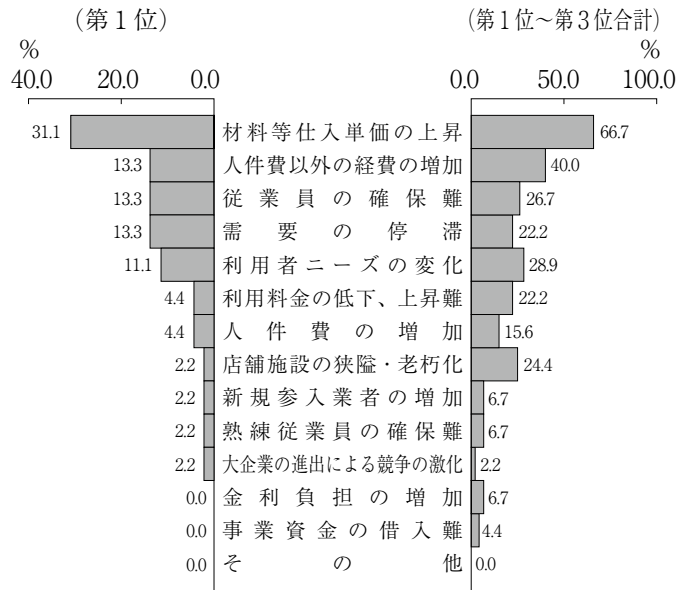


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が31.1%で、次いで「人件費以外の経費の増加」「従業員の確保難」「需要の停滞」が同率13.3%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が66.7%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が40.0%、「利用者ニーズの変化」が28.9%、「従業員の確保難」が26.7%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が24.4%、「需要の停滞」「利用料金の低下、上昇難」が同率22.2%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

採算DIの比較でも全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは、「利用客数、客単価が上昇傾向」（飲食店）、「インバウンドも増え宿泊需要が増加」（宿泊）とする一方、「光熱費や材料費等の上昇で採算性は低い」、「最低賃金改定により人件費が増加」（飲食店）、「資金繰りの悪化」（理美容）、「人手不足」（宿泊）、「価格転嫁が難しい」（車両整備）などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

